


ふりがな 氏名	よぎ りょうた <b>與儀 滝太</b>	都道府県	<b>沖縄県</b>	
所属/肩書	<b>沖縄県立名護青少年の家 ボランティア・国際交流事業担当</b>			
私のESD活動	<b>ボランティア養成講座を継続して実施し、地域の団体と連携した教育活動を計画、実施しています</b>			
ESD活動を表すキーワード	<b>社会教育</b>	<b>ボランティア</b>	<b>人材養成</b>	

**活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）**

私は、大学生時代に、地域と大学生を繋ぐ中間支援活動を行う学生団体を立ち上げ、ワークキャンプ等の企画・運営をしてきました。その活動を通して、地域から多くのことを学び、社会教育の可能性に魅力を感じ、社会教育施設にて働くことを決めました。

青少年の家においては、ボランティア事業を担当し三つの柱をたてて活動をしています。一つ目は、「地域ネットワーク」の構築です。沖縄県内の大学をはじめとする教育機関や NPO 団体等の地域活動に関わる方々と意見交換を行い、ネットワークの構築を進めてきました。結果として、台湾やハワイなどからの留学生による母国紹介や地域の保育園児によるエイサー等のプログラムで構成する国際的かつ地域密着の祭りを開催しました。二つ目に、ボランティアの知識・技術の向上を目的とした「ボランティア養成講座」を継続的に実施しています。講座を通して、コミュニティや世代を越えての交流が図られ、多様な価値観に触れる機会となっています。最後に、活躍の「場」の創出に取り組んでいます。親子キャンプ等の事業補助やボランティア養成講座で学んだ事を活用する機会として、今年度から「ボランティア協力事業」を企画・実施しています。この取り組みは、事業補助や施設修繕等のボランティア活動から一歩進み、ボランティアが自ら積極的に事業の企画・運営をするというものです。ボランティアからは、地域の子供達を招いた「七夕まつり」やボランティア養成講座のプログラム作り等様々なアイデアが提案され、実際に企画が実施され始めています。このように、継続してボランティアに参加した学生が積極的に参画し始めていることは、大きな成果だと言えます。

・沖縄県立名護青少年の家 <http://www.opnyc.jp/>

・一般財団法人沖縄美ら島財団 <http://churashima.okinawa/about2/11>

**ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？**

今後のESD活動の展開として2点考えがあります。1点目は、これまでのESD活動の取り組みを広く発信し、より多くの地域住民が参画するネットワークづくりを行い、ESD活動の深化を図っていきます。具体的には、「ヒト」を中心とする地域資源を活かした(琉球ガラスなどの伝統工芸や博物館との連携等)ボランティアプログラム開発を地域協同で取り組んでいきます。さらに、私が所属している財団では、沖縄美ら海水族館や海洋博公園、首里城等を管理運営しています。それに伴って、動植物や歴史の研究者も多く在籍しています。そういった資源も活用し、より充実したESD活動を行っていきます。2点目に、これまでの活動がボランティア活動者をどれだけエンパワメントできたかを調査及び検証するための測定、分析方法を考えていきます。